

ものに使用されているのが数本ある)、紐類、片身、引き解きかけのものといった員数として正確には数え難いものも多々あり、総数はあくまでも概数ということにした。

44 西洋服飾史が専門の丹野郁琦^{たのりかぢ}玉大学教授には、筆者が紀州東照宮の服飾類第一回調査から帰って写真が出来る早々に連絡をし、その服飾類中に見られる南蛮の影響の多大なることを知らせた。昭和五十一年三月下旬、筆者が第四回目の調査に紀州東照宮に趣いていた折に、丹野教授は石井とめ子、景平一恵両氏を助手役に同伴して来訪され、西川秀紀宮司の御厚意によって西洋服飾史の立脚点から二日間の見学、調査をされた。教授年来の研究に早速紀州東照宮の南蛮影響服飾類が悉く加えられ、同年十一月、教授の学位論文でもあった「南蛮服飾の研究」(雄山閣出版)が出版された。また同教授は昨春秋(昭和五十三年秋)リスボンの国立衣裳博物館で開催されたイコム・コスチューム国際会議で「南蛮服飾」ポルトガル人が日本の服飾文化に与えた影響」と題し研究発表された折、紀州東照宮の頼官所用襷襟を二点(D-5、D-6)を持参され、世界でも稀有のもの多々の研究者の注目をひいた。

45 上杉家伝来服飾類参考文献

上杉神社の服飾品

ミュージアム56号 昭和30年11月

山辺知行

伝上杉謙信所用金銀欄縵子等縫合胴服について 上、下

神谷栄子

伝上杉謙信・上杉景勝所用服飾類調査報告 一

美術研究216・219号 昭和36年5月・11月

伝上杉謙信所用小袖十二領

神谷栄子

伝上杉謙信・上杉景勝所用服飾類調査報告 二

美術研究228号 昭和38年5月

伝上杉謙信所用帷子四領

神谷栄子

伝上杉謙信・上杉景勝所用服飾類調査報告 三

美術研究233号 昭和39年3月

伝上杉謙信所用胴服八領 上、中、下

神谷栄子

伝上杉謙信・上杉景勝所用服飾類調査報告 四

美術研究242・243・244号 昭和40年9月・11月、昭和41年1月

伝上杉謙信所用陣羽織八領

神谷栄子

伝上杉謙信・上杉景勝所用服飾類調査報告 五

美術研究259号 昭和44年3月

上杉家伝来鎧下着・着込み・頭巾等四領二個 上、下

神谷栄子

伝上杉謙信・上杉景勝所用服飾類調査報告 六

美術研究291・294号 昭和49年1月・7月

上杉家伝来衣裳

山辺知行、神谷栄子

講談社

昭和44年4月

美術研究所報

「日本美術年鑑」の刊行

美術部第二研究室の編集による「日本美術年鑑」昭和五十一年版(昭和五十一年一月から十二月の間の記事)は昭和五十三年三月に、また同昭和五十二年版(昭和五十一年一月から十二月の間の記事)は昭和五十四年三月にそれぞれ刊行された。

研究会 昭和五十四年

一月二十四日 中国文物瞥見(二)

上野アキ

三月 十四日 八大人人と牛石慧について

—新出の牛石慧・鳥石図について—

鶴田武良

五月 九日 洋風画法による達磨図について

三輪英夫

五月 三十日 色料と吸収スペクトル

東大理学部教授 森田茂広

六月 三十日 雲崗石仏と二天像ほか

猪川和子

七月 十一日 古代朝鮮仏と飛鳥仏

久野 健

九月二十六日 ターク・イ・ブスターンの摩崖浮彫

関口正之